



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2021年
No.5
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

同効薬の重複



事例

【事例の詳細】

ベネット錠75mgを継続して服用している患者に、テリボン皮下注28.2 μ gオートインジェクターが処方された。治療ガイドラインを確認したところ、テリパラチドとビスホスホネートの併用効果はみられていないとの記載があるため、処方医に情報提供した結果、ベネット錠75mgが削除になった。

【推定される要因】

処方医によるベネット錠75mgの中止指示が漏れたと考えられる。

【薬局での取り組み】

添付文書には骨粗鬆症治療薬の併用に関する記載がなく、治療ガイドラインで情報を収集した。新しく発売された薬剤が処方された際は添付文書を確認するとともに、インタビューフォームやガイドラインなどを活用して情報収集を行っていく。



その他の情報

<参考>骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版* (一部抜粋)

第V章 骨粗鬆症の治療

B. 治療薬選択の考え方

CQ 骨粗鬆症治療薬の併用による効果は

骨吸収抑制薬同士の併用療法ではその効果はいずれも限定的である。一方、テリパラチドとビスホスホネート、テリパラチドとラロキシフェンも併用効果はみられていない。

*骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会（日本骨粗鬆症学会 日本骨代謝学会 骨粗鬆症財団）編集
http://www.josteo.com/ja/guideline/doc/15_1.pdf



事例のポイント

- 骨粗鬆症の治療のためビスホスホネート製剤を服用している患者に、同じ治療目的で注射薬のヒト副甲状腺ホルモン製剤が処方された事例である。両薬剤の併用は添付文書上禁忌ではないが、要否を検討する必要がある。
- 骨粗鬆症の治療は内科や整形外科などの複数の診療科で行われることや、近年、作用機序や剤形の異なる様々な薬剤の投与が可能になったことから、成分や薬効が重複する薬剤が処方され疑義照会を行った事例が継続して報告されている。
- 過去に公表した共有すべき事例でも、骨粗鬆症治療薬の重複処方に関する事例を取り上げている。

※共有すべき事例2019年No. 3事例3

http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharingcase/sharingcase_2019_03_03G.pdf

※共有すべき事例2019年No. 12事例1

http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharingcase/sharingcase_2019_12_01G.pdf



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。